

道の駅「越前おおの 荒島の郷」施設管理・運営計画



道の駅
越前おおの 荒島の郷
Echizen Ono Arashima no Sato

目次

1 道の駅の管理・運営	
(1) 指定管理契約による総合的な管理・運営	1
(2) 農林産物及び特産品などの販売コーナーの運営	2
(3) 飲食テナントの運営	
(4) 観光案内所の運営による回遊性の向上	3
(5) モンベルショップ及びカフェなどの運営	4
(6) 屋外交流広場の運営	5
(7) 文化伝承室の運営	
(8) RVパークの運営	
(9) 道路・観光情報コーナーの管理(道路管理施設)	
(10) トイレの管理(道路管理施設)	6
(11) サインによる案内・誘導	
(12) キッズコーナーの運営	7
(13) 広域防災拠点施設	
(14) 地域振興施設平面図	8

1 道の駅の運営・管理

(1) 指定管理契約による総合的な管理・運営

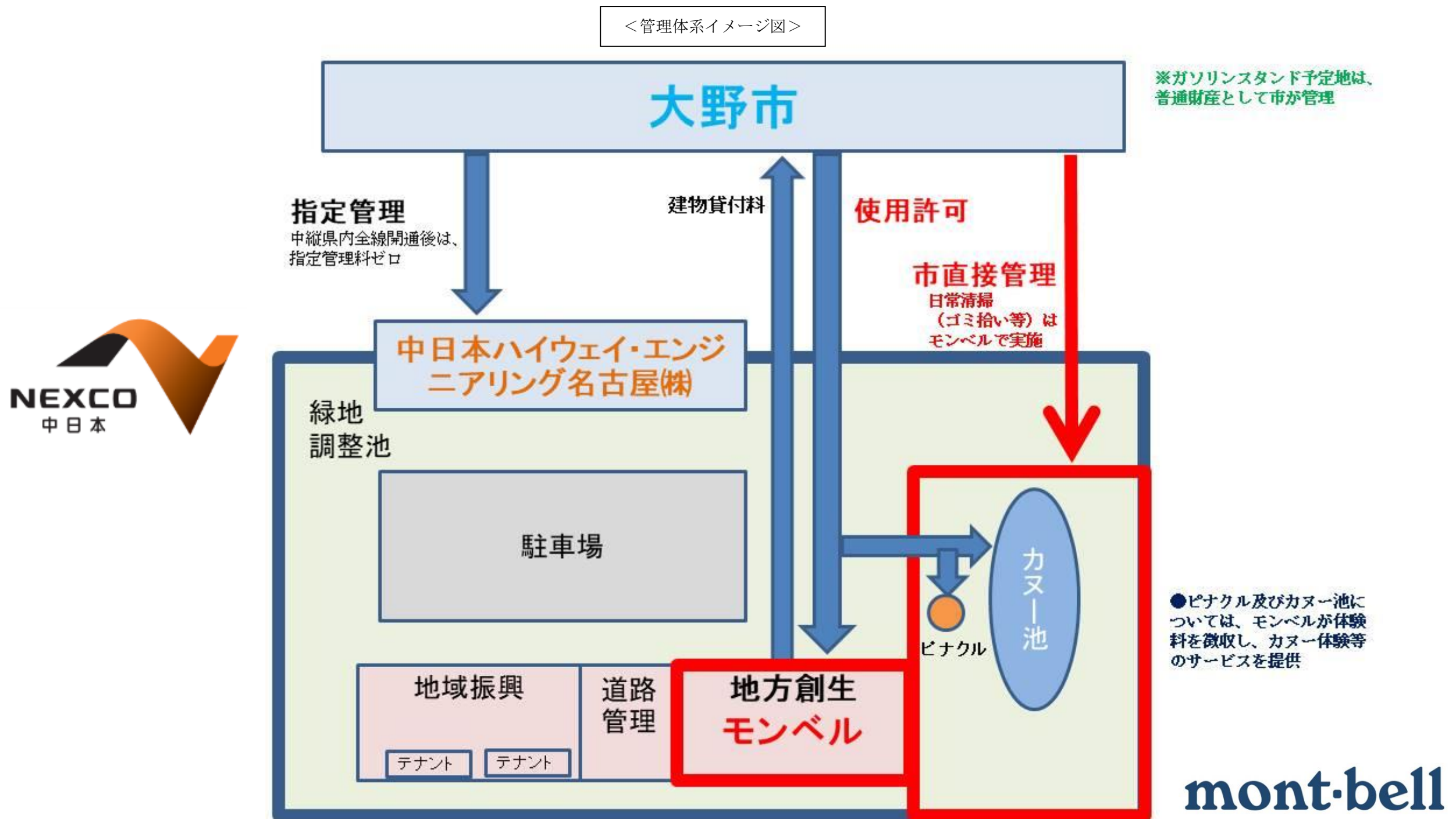
道の駅のうち道路管理施設及び地域振興施設並びに駐車場及び緑地などの管理を、平成29年度に実施した公募型プロポーザルにより採用者となった中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株）に総合的に委託します。

同社は高速道路やサービスエリアの管理経験を生かし、全ての施設を清潔かつその機能を正常に保持し、来場者の安全かつ快適な利用が図れるよう維持管理の最適化を行います。

指定管理者は、直売所やテナントなどを全体的に管理し、運営を行います。

また、越前おおのブランドを生かし、大野産米を加工した特産品の開発により、地域経済を活性化し、消費拡大を推進するため、直営事業として大野産の米粉や米粉を使用したバームクーヘンを製造・販売します。

なお、地方創生施設及びカヌー池やクライミングピナクルなどについては、市の直接管理とし、使用許可によりモンベルが出店し、運営します。



(2) 農林産物及び特産品などの販売コーナーの運営

①「大野市道の駅産直の会」の組織化

地元生産者で組織する「大野市道の駅産直の会」の活動により、道の駅「越前おおの 荒島の郷」及び道の駅「九頭竜」において、地元で採れる新鮮な野菜や市内で生産される特産品などを多数集め、魅力的な直売所とします。この「大野市道の駅産直の会」は農林業者や事業者などの会員により構成され、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)と福井和泉リゾート(株)が事務局を担っています。また、大野市や奥越農林総合事務所、JA福井県、大野商工会議所、(一財)越前おおの農林楽舎がサポートを行っています。

「農林産品部会」と「加工品部会」が設立され、それぞれの課題解決に向けて勉強会を開催するなど自主的に取り組んでいます。

②「大野市道の駅産直の会」への支援

道の駅に魅力ある商品を並べるため、市は、(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)と連携し、多品目野菜の作付のための研修会を開催しています。また、福井県中小企業診断士協会とも連携し個別相談会などを開催して、商品開発などを行う会員へのサポートを行っています。

さらに、「商品づくり・商品開発事業支援補助」などにより、会員が行う新たな商品開発や商品の改良などを支援しています。

③直売所の運営形態

直売所を「荒島マルシェ」とし、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)が全体的に管理を行うとともに、出店者である(株)HSと連携して運営を行います。季節や出荷量、来館者のニーズなどから総合的に判断し、管理・運営を行うことで、商品を充実させ、魅力ある直売所とします。

産直の会会員は委託販売方式により、地元の農林産物や加工品を直売所に出荷します。また、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)と(株)HSが必要な商品を選定し、仕入販売方式により、県内の土産品や酒類、大野市と交流のある自治体の特産品などを仕入れ、販売します。

④出荷促進に向けた取り組み

POSレジシステムを導入することで、販売履歴を管理し、計画的な出荷につなげます。また、会員の生産者コードや商品コードを統一し、両道の駅のシステムを接続・同期させることで、会員は両道の駅への出荷が可能となります。

また、あらかじめ設定された時間で会員に販売状況をメールにて通知することで、商品の追加出荷を促し、稼働力の向上につなげます。

<産直の会 販売手数料>

区分	手数料率
農林産物	15%
加工食品	23%
木工品、手芸品、工芸品	28%
その他(苗木、切り花など)	28~33%
冷凍冷蔵商品は上記の手数料率に+5%	

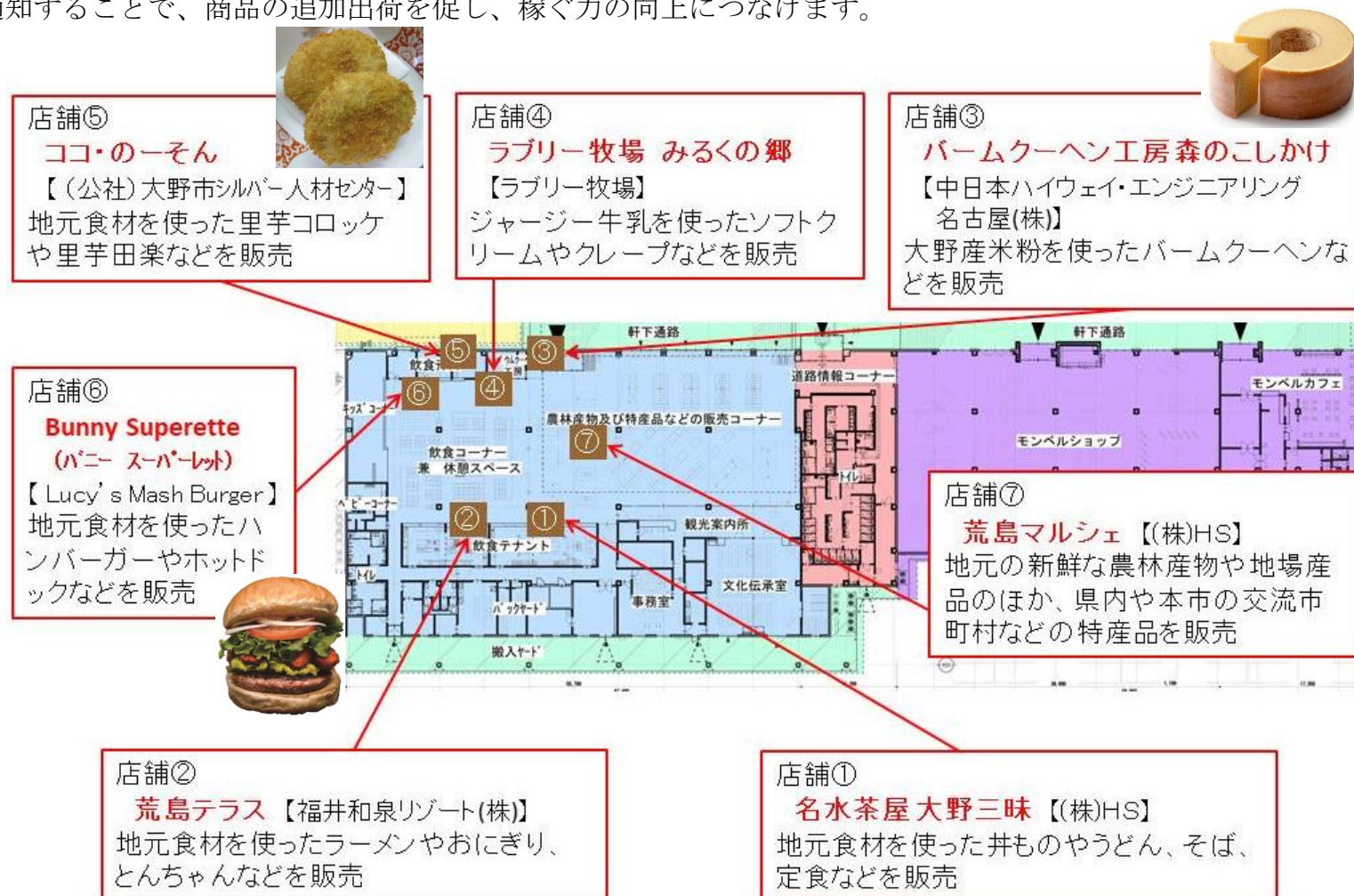
(3) 飲食テナントの運営

地元の飲食事業者が飲食テナントとして道の駅に出店し、大野産食材などを生かしたメニューを提供します。指定管理者はテナント料を徴収し、管理費に充当します。

来館者に愛される魅力ある道の駅とするため、道の駅に出店する事業者が連携して令和元年8月に「テナント連絡協議会設立準備会」を組織し、道の駅のPRや集客事業の検討に取り組んでいます。

また、奥越明成高校生活福祉科の生徒と連携して、主にテイクアウトのメニュー開発を行い、飲食コーナーでの商品化を目指します。

- テナント連絡協議会設立後の主な事業内容(予定)
- ・集客イベント事業の企画、運営
 - ・食品衛生に関する情報交換、研修会開催
 - ・道の駅のPR及び販売促進活動
 - ・安全、防災、防犯などの活動
 - ・地域連携、貢献(CSR)などの活動



(4) 観光案内所の運営による回遊性の向上

①観光案内人の設置

地域振興施設内に観光案内所を設け、地域おこし協力隊とも連携し、来館者を市内の観光スポットや体験会場へと誘導します。

②観光クイズラリーの実施

観光案内所に配置するAIロボット（ロボホン）を活用し、道の駅「九頭竜」や観光施設などに配置予定のAIロボットと連携し、クイズラリーを行い、回遊性の促進を図ります。なお、越前こぶし組などで、道の駅に先行し令和2年3月からロボホンによる観光案内の実証実験を行っています。

③体験メニューの造成

国内大手旅行会社と連携し、市内の民間体験事業者に対しワークショップを行い、体験メニューの磨き上げや受入サービスを構築することにより、道の駅を起点にした観光体験メニューを提供します。

④サイクルツーリズム事業

大野市、勝山市及び永平寺町と連携し、九頭竜川沿線でのサイクルツーリズムを展開します。特にサイクリストへの訴求力を高めるため、モンベルが中心となって進める「ジャパンエコトラック」の認定を目指し、道の駅「越前おおの 荒島の郷」や城下町東広場など5か所をサイクル拠点とします。なお、道の駅「越前おおの 荒島の郷」には、レンタサイクルを配備します。

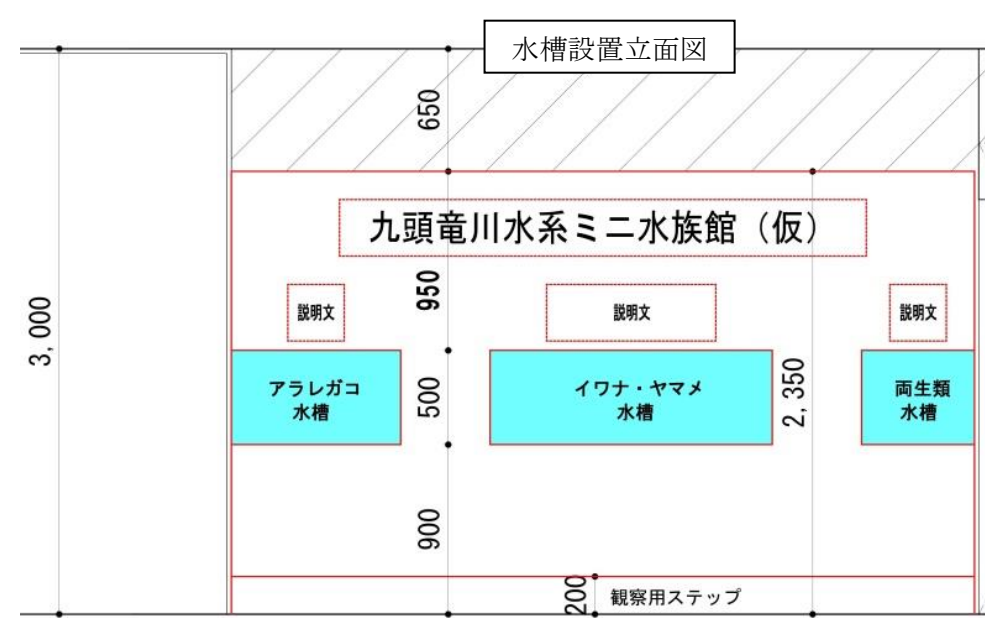
⑤県内の道の駅などと連携

福井県「道の駅」連絡会に加盟し、道の駅ガイドブックにクーポン券などの特典を付与することで、福井県に訪れた観光客に県内の道の駅巡りを推奨します。また、大野市・郡上市「道の駅」連絡協議会に加盟する郡上市内の道の駅などと連携し、特産品の販売やマップの作成などにより回遊性の促進を図ります。さらに、高速道路のSAやPAでの情報発信に努めます。

⑥「水」の癒し空間の創造

大野市の魅力のひとつである九頭竜川を水源とする「豊かな清水」を感じる施設を創造します。観光案内所横に水槽を設置し、奥越漁業協同組合などと連携して、九頭竜川上流に生息する希少な魚などを紹介します。

サイクリングツーリズム事業 イメージ図



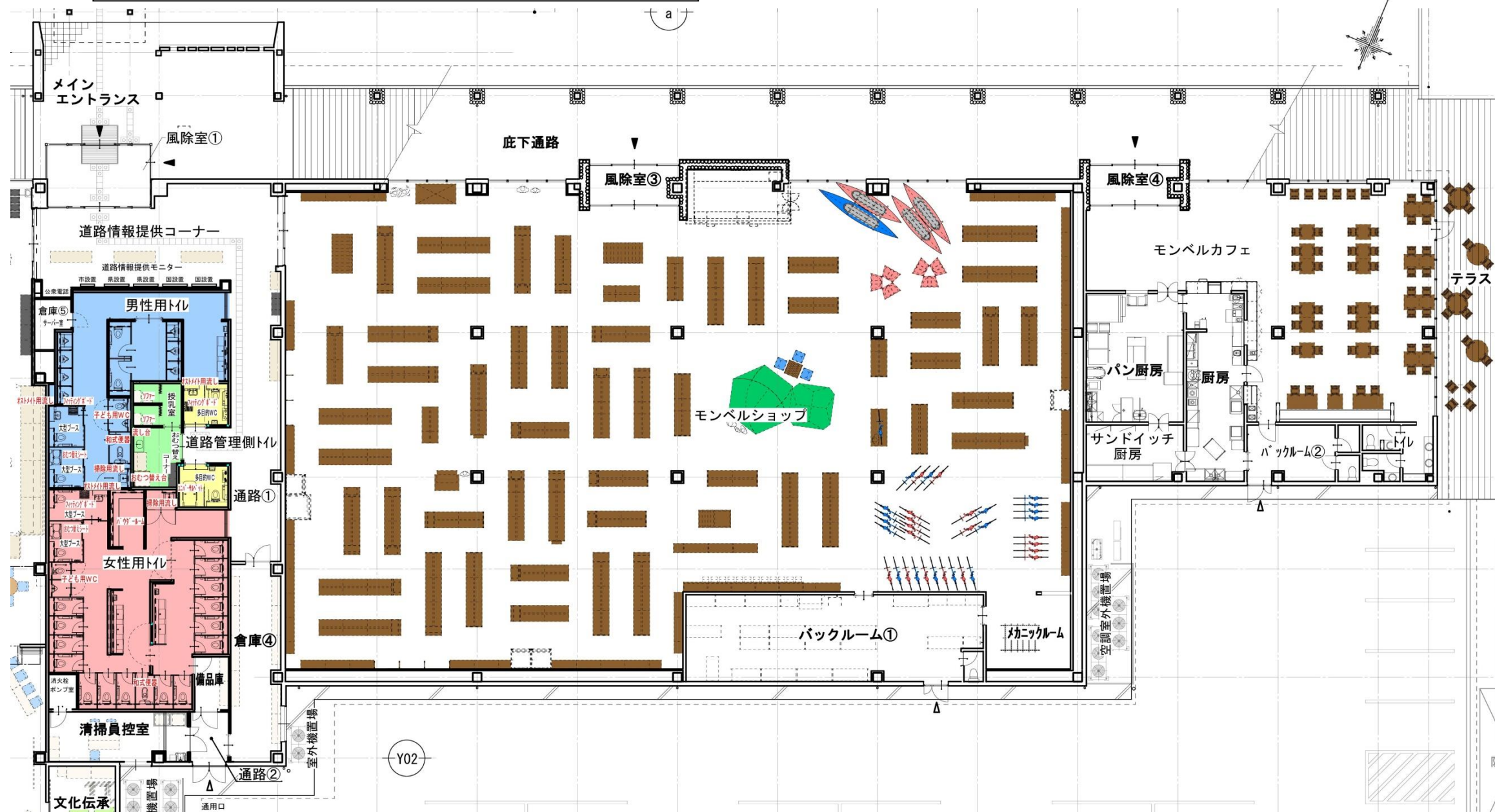
(5) モンベルショップ及びカフェなどの運営

地方創生施設において、大手アウトドア総合ブランドのモンベルがアウトドア商品などのショップ及びカフェを運営します。

モンベルは、調整池をカヌー池として活用したカヌー体験や道の駅のランドマーク（誘客するためのシンボル）となるクライミングピナクルを活用したクライミング体験を実施し、道の駅への集客を図ります。

<販売予定商品>

- ・登山用品、キャンプ用品、サイクリング用品、カヌー用品など



※写真はイメージです。



(6) 屋外交流広場（屋根付き）の運営

指定管理者は、屋外交流広場をイベントスペースや休憩・飲食スペースとして活用します。

(7) 文化伝承室の運営

指定管理者は、文化伝承室の利用促進を図り、そば打ち体験や市内各種団体の研修などを行う場所として貸し出します。また、観光バスの昼食会場としても貸し出し、使用料を徴収し、管理費に充当します。

(8) RVパークの運営

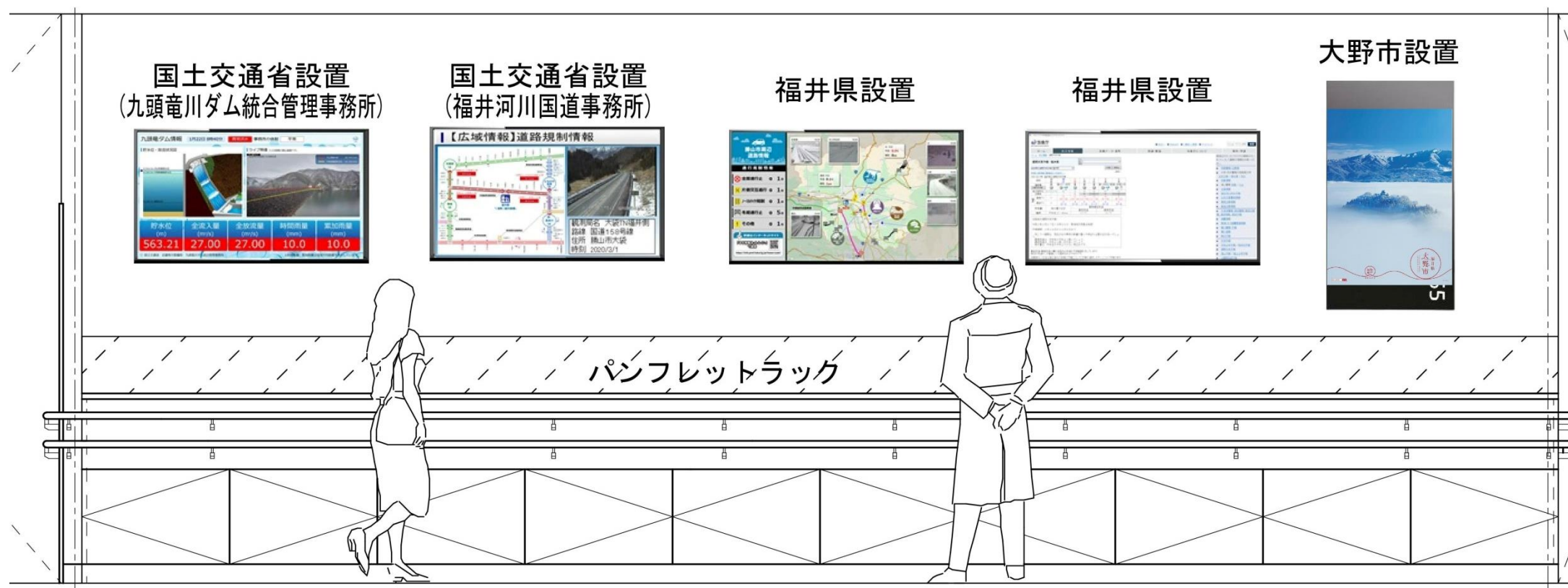
今般、車中泊車やキャンピングカーの利用者が増加する中、RVパークは、指定管理者の運営により、キャンピングカーなどの利用者に電源の利用が可能な10台分の駐車スペースを貸出し、使用料を徴収し管理費に充当します。

※RVパークとは、日本RV協会が認定する自動車での宿泊を公認された駐車スペースとのこと。(道の駅のRVパーク認定の手続きは今後行う予定)
2020年4月現在、全国に約150か所あり、道の駅も26駅認定されています。

(9) 道路・観光情報コーナーの管理（道路管理施設）

国、県と連携し、モニターを5台設置し、来館者に道路情報、観光情報及び防災情報などを提供します。また、パンフレットラックを設置し、観光パンフレットやイベントのチラシなどを提供します。

設置者		提供する情報	内容
国土交通省	九頭竜川ダム統合管理事務所	ダム・河川情報	ダム画像、貯水量
	福井河川国道事務所	道路情報	国道・高速道路の道路規制情報、積雪情報、道路画像（動画）
福井県		道路情報	国道・県道の道路規制情報、雪道情報、道路画像（静止画）
		道路画像	防災情報、天気予報
大野市		観光情報 道の駅情報	観光スポット、イベント情報 買い物情報



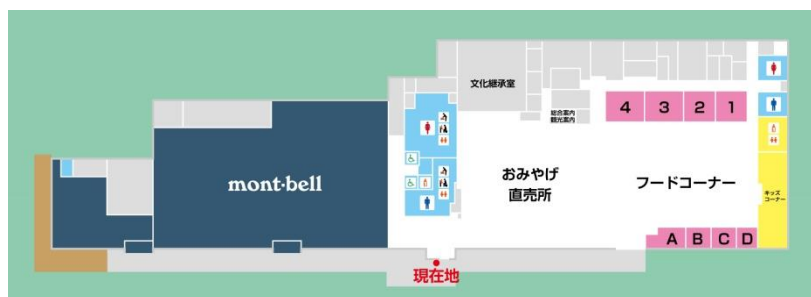
(10) トイレの管理（道路管理施設）

- ①多目的トイレの設置
 - ・ 2ブース設け、障害者や高齢者、妊婦、トランスジェンダーなどに配慮します。
 - ・ 男女両トイレ内にも多目的に使用できる大型ブースを設置します。
- ②子育て応援スペース
 - ・ 授乳やおむつ替えができるスペースを確保し、子育て世代を支援します。
- ③トイレの運営
 - ・ 24時間使用可能なトイレとし、指定管理者への清掃委託により常に清潔に保ちます。
- ④維持管理経費の抑制
 - ・ 閑散期と繁忙期で使用できるエリアを分けられるよう仕切り戸を設け、ランニングコストを抑えます。

(11) サインによる案内・誘導

- ①施設案内図
 - ・ 建物内外に施設案内図を設置し、駐車場から建物内まで、来館者を目的に沿って誘導します。
- ②ピクトサイン
 - ・ ピクトサインをトイレや観光案内所などに表示し、誰でも分かりやすく建物内へ誘導します。
- ③デジタルサイネージ
 - ・ 地域振興施設や道路管理施設にデジタルサイネージを設置し、観光案内や直売所で販売する商品などの情報を発信することで、回遊性促進や購買意欲の向上につなげます。

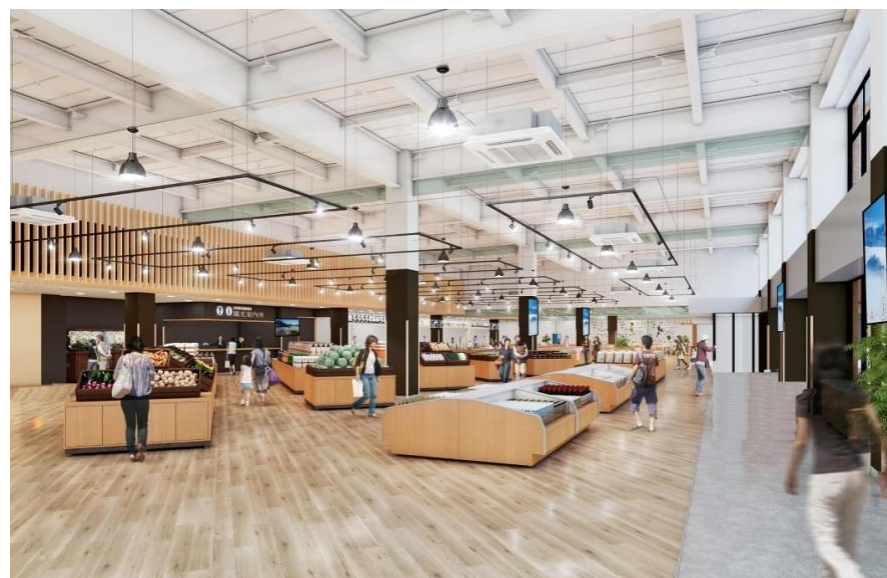
サインのデザイン図



ピクトサイン図

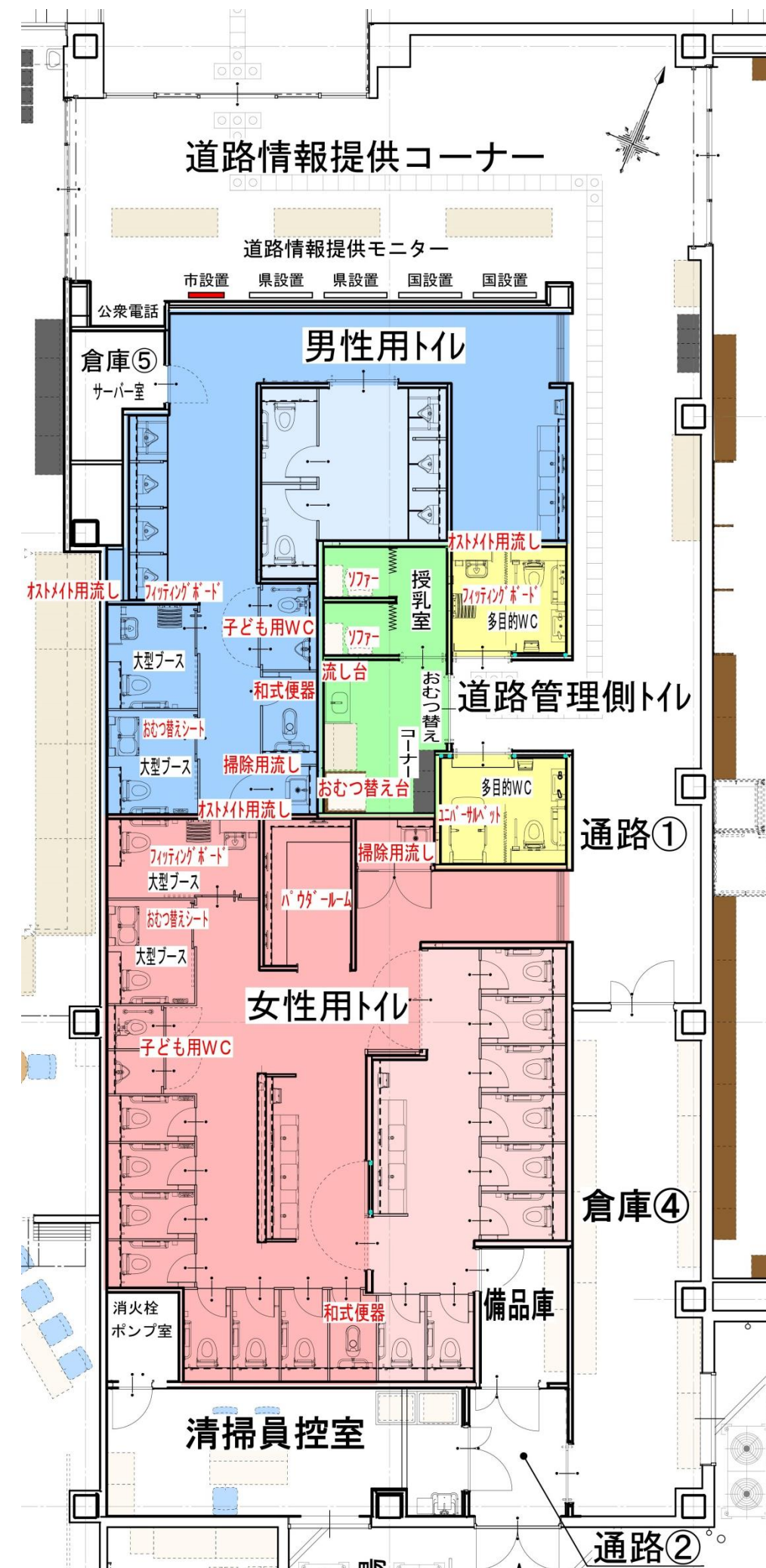


デジタルサイネージ設置のイメージ図



デジタルサイネージを活用した情報発信

観光情報	越前大野城や御清水、七間朝市など 市内の観光スポット
イベント情報	おおの城まつりや九頭竜まつりなど 市内で開催される四季折々のイベント
直売所情報	地元の野菜や加工品、お土産など 旬の食材やお買い得情報



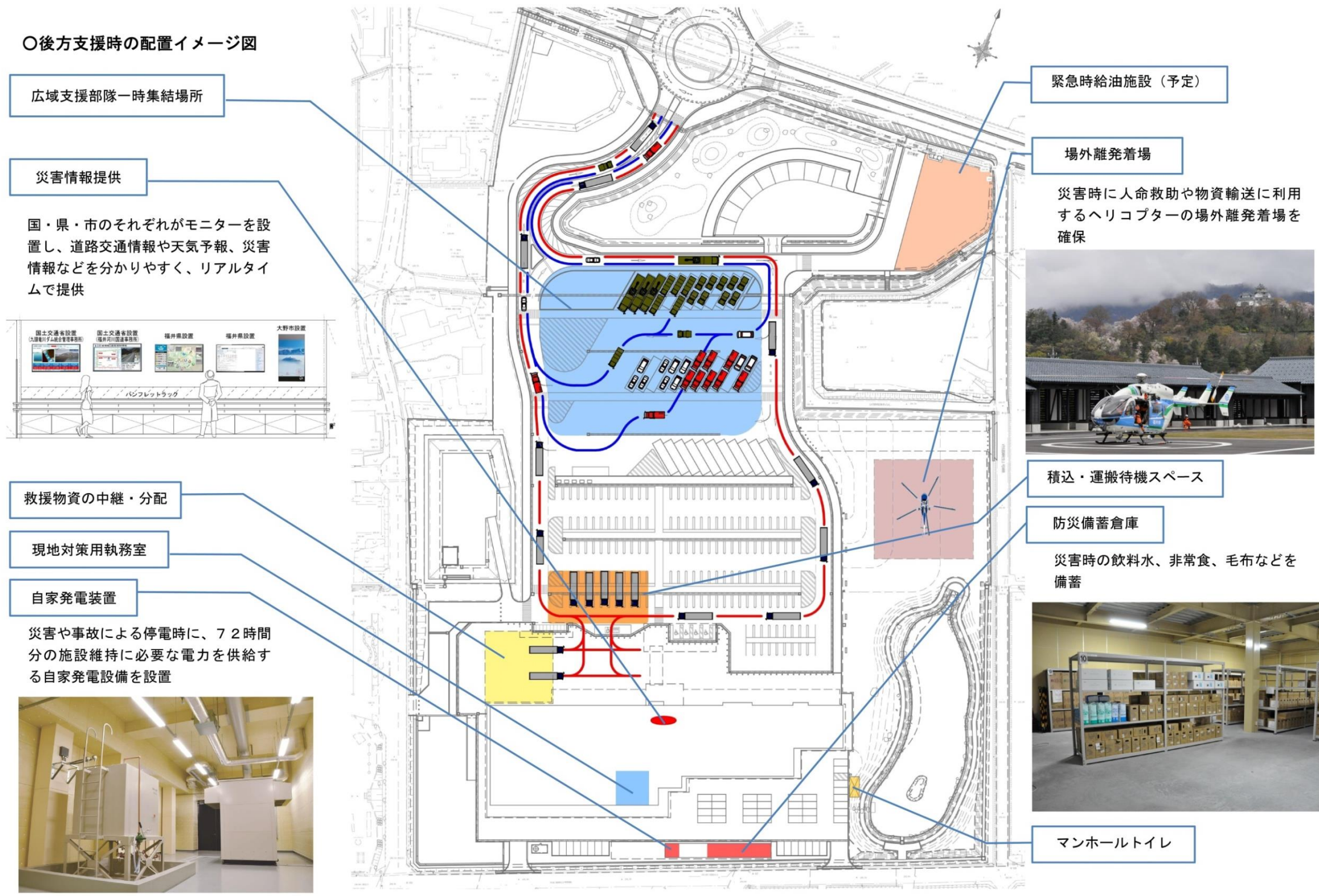
(12) キッズコーナーの運営

子どもの遊び場を創出するため、キッズコーナーを設置します。現在、運営内容を検討しています。

キッズコーナー運営内容（予定）	
物販	子ども向け玩具の販売など
体験、縁日	恐竜の色付け体験など、わなげやヨーヨー釣りなどのイベント開催
遊具	幼児用スペース、ボルダリング、滑り台などの設置

(13) 広域防災拠点施設

近隣での災害時には、地域住民及び中部縦貫自動車道利用者の一時避難場所を開設し、安全確保に努めます。
 長期に及ぶ広域的な災害時には、県と協力し活動拠点として、受援部隊の受け入れや応援部隊の拠点としての機能を発揮します。
 また、令和2年度10月から国土交通省が募集する「防災道の駅」の登録を目指します。



○後方支援時の配置イメージ図

広域支援部隊一時集結場所

災害情報提供

国・県・市のそれぞれがモニターを設置し、道路交通情報や天気予報、災害情報などを分かりやすく、リアルタイムで提供



救援物資の中継・分配

現地対策用執務室

自家発電装置

災害や事故による停電時に、72時間分の施設維持に必要な電力を供給する自家発電設備を設置



緊急時給油施設（予定）

場外離発着場

災害時に人命救助や物資輸送に利用するヘリコプターの場外離発着場を確保



積込・運搬待機スペース

防災備蓄倉庫

災害時の飲料水、非常食、毛布などを備蓄



マンホールトイレ

(14) 地域振興施設平面図

